

神奈川県立愛川高等学校 平成 29 年度 第 1 回学校運営協議会議事録

書記：広報研究開発グループ
総括教諭 安達 晃雄

日 時： 平成 29 年 6 月 23 日（金） 10：00～12：00

場 所： 神奈川県立愛川高等学校 校長室

参加者： 石田 裕昭 神奈川県立愛川高等学校 入試広報課 担当部長
佐野 昌美 愛川町教育委員会 指導室長兼教育開発センター所長
小林 晴男 愛川町三増区長
小倉 英嗣 元 PTA 会長
川匂 秀彦 愛川高校同窓会長
林 直子 愛川高校 PTA 会長
大沢 利郎 愛川高校 校長

事務局： 尾本 一則 愛川高校副校長、 中西 正文 愛川高校教頭
山本 照美 愛川高校事務長
安達 晃雄 愛川高校総括教諭（広報研究開発グループリーダー）

議事録：

1 校長挨拶

2 協議

a 愛川高校の学校経営計画の承認について
校長)

- ・ 目指す子供像は「地域に立脚し、自ら未来を切り開く人材の育成」は地域の目指す学校像と合致している。愛川高校は地域連携の先進的なモデル校に指定されており、地域連携部会の立ち上げを担当部署と模索している。
- ・ 学校評価はお手元の資料を参照、H28 報告、H29 設定が記されている。
- ・ 教育課程に関しては H30 年度からのものを策定中であり、生徒一人一人をどう伸ばしていくかの取り組みを行っている。I-Unit では基礎力診断テスト（学びの基礎診断）に対応し、新学習指導要領に合致している。
- ・ 生活指導に関しては規範意識を高める指導を行い、昨年特別指導の件数の延べ日数が前年に比べて 100 日ほど減少し、全てに於いて改善されている。
- ・ 進路未決定率は 7% 台と過去一番少ない良い結果であった。大学・短大 25%、専門学校 25% の進学率であった。今年度はすでに第 2 学年で一日大学体験を行い、生徒結果アンケートには、今まで関係ないと思っていた生徒が大学もいいなと思うようになった結果を表している。大学が無理と思っていた生徒が可能性の中に一度は考えるようになる。
- ・ 今まで進路別希望制クラスをとっていたが止めた。これは前向きに進学を最後まで考えさせる指導に移行していったからである。
- ・ 地域防災に関してタウンニュースに愛川ファイアーガードクラブが取り上げられた。
- ・ 現在在籍している出身中学の割合は愛川地区以外では相模原地区が 4 割と多くなってきている。
- ・ 昨年美術Ⅲの生徒が本校女子トイレに対してトイレアートを作成してくれた。

質問等)

小林)

- ・地域との協働とはどのようなものか？

回答)

- ・ゴミゼロ運動の協力、町の祭事参加(神輿担ぎ)、和太鼓部の演舞ボランティア等々を行っている。連携事業の冊子をご覧ください。

石田)

- ・連携冊子は誰が閲覧するのか。

回答)

- ・町、県等の教育委員会を中心に配布される。

小林)

- ・協働を進めるのは部活動だけか。

回答)

- ・時期的にタイミングがあった部活動が主に参加している。

小倉)

- ・議会で中高一貫教育やキャリア教育の発言をしているが、職場体験の重要さはわかっている。校長の見解は？

回答)

- ・自己肯定感、コミュニケーション力をつける取組みをし、学びは最低限の学力は保証してきた。これから先に何が子供達に必要なか。今までは地道にコツコツだった。これからの10年はどういう仕事が残っていくのか。高い視野、広い人脈を持っている人が起業できる。このような力をどう身につけさせるかの観点から授業も進めている。

石田)

- ・目標設定のイメージをできる。愛川高校が教員も生徒も活発に活動している。今後はこのことを学外にどう広報していくのか。一つはホームページ、愛川高校のホームページのレベルは高いが、部活動が盛んなんだと思ってしまう。他の取り組みがトップページから見えてこない。また、進路の実績がホームページ上に出ていない。

回答)

- ・自己肯定感は部活動からと考えていたので、まずは部活動から出していこうとかつて指示していた。確かに、県でさえも愛川高校の多種の取り組みを把握しきれていなかった。伝えることは大事だと思う。取組みに広報を意識して進める。

ここまで協議会にて承認

b 愛川高校学校運営協議会部会の設置について

c 愛川高校のこれからのあり方について

(bとcを含む)

- ・資料のように学校運営協議会の下に評価部会、学校連携部会、地域連携部会を設置する。
- ・学校運営協議会と評価部会は同一メンバーで行う。(県も認めている)
- ・学校連携部会は中高連携連絡協議会をもって当てる。
- ・地域連携部会は昨年度は無かったが、明日楓会(仮称)の設置を外部に考えている。埼玉の可児高校が行っているシステムである。10年先を考え、町おこしもトータルで必要になると考える。愛川高校と一緒に街づくりをしていくコーディネーターの方に協議会に参加してもらおう。また、H30以降に入ってくる生徒にボランティア1単位を課すことを考えている。1年生の4~5月にボランティアガイダンスを行う。そこに明日楓会(仮称)に出てきてもらおう。10年後に愛川町に戻ってきてくれるようになれば、町も愛川高校もWin Winの関係になれる取組みを考えている。

b.cを含めたご意見等)

小倉)

- ・徳島ハッピービジネスという成果がある。愛川町は鮎川から来ているという説があるが、昔は取れた鮎が江戸で高値で売れた。だが、水生昆虫はダムができて 20 分の 1 に減っている。愛川町は宝の山だと思う。そういう目で見てもらいたい。バイオマスの発電所を作るとよいと考えている。こういう考えの出会いの場を外に作るとよい。

石田)

- ・戻って愛川高校に来る生徒はいろいろな幅のある生徒が必要だと考える。Top～就職まで幅広い中学生に対応できる高校という方向はどうか。

回答)

- ・最低限の学力をつける。個別に高い生徒に対応する。集団で育てると全体も育つと考えている。限られたエリアの生徒達ならではであり、広範囲からの生徒では義理もない。近いところから厚く集めることも有りだろう。

以上協議会で承認

3 その他

- ・今後の日程については別途お知らせする。

以上で学校運営協議会終了